

< 巻頭言 >

地 理 教 育 の ル ネ サ ンス

- 原 点 は 授 業 に お け る 地 域 調 査 -

岐阜県高等学校教育研究会地理部会長
岐阜県高等学校文化連盟地域研究部会長
(岐阜県立華陽フロンティア高等学校長)

小 山 徹

かつて、岐阜県の高等学校地理教育担当者が、指導の内容や方法そして教材について、また、生徒が行う地域調査の在り方や具体的な方法について、自らの実践例を持ち寄って熱っぽく語り合い・互いに高め合う時代があった。地理教師の多くは、自らの研究テーマを持ってフィールドワークや文献調査を重ね、寸暇を惜しんで整理・考察してレポートや論文を発表するとともに、その情熱や研究成果を積極的に授業に投入していった。身近な地域事象を提示しながら生徒に地理を学ぶ楽しさやおもしろさを伝え、具体的な説明の中から地理的な見方や考え方の基礎を培い、地域や世界を地理的に認識する力を養う指導を展開していった。

いま、高校で地理を担当している先生方の中には、生徒の立場でこのような熱と夢のある授業を受け、地理への興味・関心を一層深めていった経験を懐かしく思い起こされる人も少なくないであろう。同時に、各学校において現在の地理教育が置かれている環境や、地理教育に求められている役割を改めて見るにつけ、かつての輝きを失った姿に忸怩たる思いを抱く人も少なくないであろう。

「地理を学ぶ楽しさやおもしろさを生徒に伝えることができる授業の実践的研究」これが自主研修グループの基本的なテーマであり、学習指導要領で地理A・地理Bの目標に共通した『地理的な見方や考え方を培い』の文言が、それを実現するキーワードと考えた。言い換えれば、生徒が「諸事象を位置や空間的な広がりとかかわり度とらえ、地理的事象として見いだすこと」や「地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みとかかわりに着目して追究し、とらえること」を目指し、それが可能になる授業の在り方を実践的に研究することである。

具体的には、野外科学である地理の原点に立ち戻り、授業時間の中で生徒とともに行う地域調査の在り方を実践の中から追究していくこととした。しかし、1～2単位時間で実施という時間の限定から、対象地域は学校周辺のごく狭い範囲に限定されてしまう。その条件下で、生徒の地理的な見方や考え方を培う地域調査をプランニングしていくことは、教師自身の地理的な感性を鋭く磨きあげ、課題意識をさらに深めるなど、地理教育の力量を大きく向上させる機会となった。

今回は、加納高等学校2年生(理系クラス)で授業における地域調査を実践するとともに、いくつかの学校を取り上げて授業における地域調査の学習指導案を作成した。今後、県内全ての学校でそれぞれ独自の地域調査モデルが作られ、実施されることを夢見るとともに、本研究が嚆矢となり、岐阜県における『地理教育のルネサンス』が始まると確信している。

最後に、研究を進めるにあたり文部科学省初等中等教育局教科書調査官 松井秀郎 先生の全面的なご指導・ご助言をいただきましたことを記し、深甚なる感謝の意を表します。